

名作文庫通信

2021年 夏号



夏季特集

なつかしき日の名作文学

こどものころ読んだ本。教科書に載っていた物語。青春時代の愛読書。



【こころ】

夏目漱石/著 新潮文庫/刊

学生だった「私」は、鎌倉の海岸で、ある男性と知り合う。

「私」は、その男性を慕うと同時に尊敬をおぼえ、「先生」と呼ぶようになる。故郷で父親が亡くなり、慌しい帰郷の後、東京に戻った「私」のもとに「先生」から分厚い手紙が届いた。「先生」も、この世の人ではなくなっていた。



【老人と海】

ヘミングウェイ/著 福田恆存/訳 新潮文庫/刊

84日間の不漁に見舞われた老漁師は、ひとり小舟で海へ出た。やがてその釣網に、大物の手応えが。見たこともない巨大カジキとの死闘を繰り広げた老人に、海はさらなる試練を課すのだが…。世界文学の金字塔。

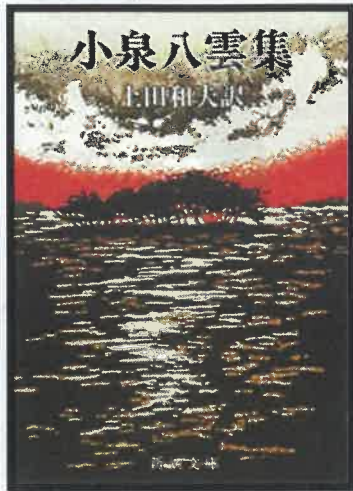
(TRC MARKより)

「名作文庫」とは？

下井草図書館では文学、哲学、思想、歴史などの名著名作を文庫版・新書版で集め、「名作文庫」としてご紹介しています。



今月の1冊 心の旅を描く物語



【小泉八雲集】

小泉八雲/著 上田和夫/訳 新潮文庫/刊

日常の生活、風俗習慣から民話、伝説まで、近代国家への途上にある日本の忘れられた側面を掘り起こして、古く美しい、霊的なものを求め続けた小泉八雲。「影」「骨董」「怪談」などの作品集から代表作全48編を新訳で収録。(TRC MARKより)

新着本 新しく入った本のご紹介



【デイジー・ミラー】

ヘンリー・ジェームズ/著 小川高義/訳 新潮文庫/刊

青年は、湖畔の美しい町で運命の美女デイジーと出会い、一目で恋に落ちる。彼女の奔放なふるまいは、保守的で狭量な人々からは嫌われていたが、青年は彼女のあとを追うようにローマへ…。ジェームズの名声を高めた傑作中編。(TRC MARKより)



【小公女】

バーネット/著 土屋京子/訳 光文社古典新訳文庫/刊

裕福なクルー大尉の娘セーラは、預けられた寄宿学校でも特別待遇を受けていた。だがある日、父の急逝と破産が知らされるや、全てを取り上げられ、屋根裏部屋で下働きとして暮らすことに。持ち前の聡明さで仕打ちに耐えるが…。(TRC MARKより)

編集後記

青春時代に何度も読んだ本は、何冊かある。『福音書』『風の歌を聴け』『人間失格』、ヘミングウェイ、スタインバックの短編集などだ。萩原朔太郎や中原中也の詩も、くりかえし読んだ。だが、こども時代になると、なにも、おもいうかばない。記憶をたどって、やっと、おもいあたった。『釣り百科』だ。こどもの頃、私は釣りに夢中で、毎日、ページをめくって、長い時間、ながめていたものだ。

発行: 杉並区立下井草図書館
杉並区下井草3-26-5

